



9月の定例会

場所「まごころふれあい広場」

在宅支援・9月7日(日) 9:30~12:30

ミニデイ・9月4日(木) 16:00~17:00

☆在宅支援定例会の午前はケアがお休みです。
利用者さんご承知下さい。お願い致します。

ミニデイサービス便り

食事がすすむ

今年は梅雨も長く、在宅で療養される方々は、はじめと気分がすぐれず、そのためか食欲までおちる方がいらっしゃいます。

在宅に入らせていただいているヘルパーさんの悩みは、食事を作っても食べていただけないこと。

体力の落ちるこの時期には「これだけでも食べてくださいね」と、何とか少しでも口に運んでいただくことに懸命です。

しかし、その方が、ミニデイサービスにお出でになると、気分が変わられるのか食事が進むことが多いのです。

何だかんだと言ひ合いながら、笑ったり、お話やら、歌やら、絵を描いたり、家にお出でになるより体も心も頭も使い、お腹がすかれるのか、周りの雰囲気誘われてなのでしょう、きれいに食べられたり、少し残される程度。

食後、事情を知っている食事スタッフは、思わず「よかった」と声が出ます。

大きな施設ではないので、皆さんの様子が手に取るように分かります。

暑い厨房で、おもいきりの遊ビリテーションの声を聴きながら、12時ジャストに食事が出せるよう一心に食事作りが行われます。

食事はミニデイのメインです。

ミニデイ利用の皆さんにとって、この昼食は大変楽しみな時間であり、そして、食がすすむ効用の時間でもあります。

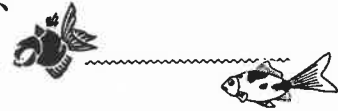
食事スタッフは、「美味しかった」の言葉を励みに献立に工夫が続きます。

平成15年8月のミニデイサービスは

事務所 5日・12日・19日・26日・28日

保育園 7日・21日

7月定例勉強会報告
移動リフトの操作とリフト実体験
指導：株モリトーさん
最近、介護リフトを導入されているお宅が少
しずつ増えていきます。
ワーカーのリフト操作に不備があつてはな
りません。利用者さんに不安な思いをしてい
たないために、研修の機会を持ちました。
介護用リフトは、
利用者さんの状態把握からよい提案を
利用者がリフトに乗ることは想像以上に体力
病む人がリフトに乗ることは想像以上に体力
も使用、不安も伴います。
操作させていたたくものは、安心と安全な操
作をしなければなりません。
吊り上げられることを体験し、その気持ちや
不安さを自ら体験、その上で、リフト操作側
の学びをご指導いただきました。
実際に、リフトに試乗し、移動操作を体験し
なかつたら、利用者さんの気持ちや操作ポ
イントも全く理解出来なかつたと思つていま
す。
ただ、健康な体でリフトに乗ることは、利
用者さんの立場とは異なつて乗ることを知
かなくてはならないでしょう。
介護用リフトは、よい提案から始まります、
と言われるように、利用者さんの状態把握を
何が必要なのか考へてから利用を始めなくて
ならないことも実感出来ました。
モリトーさんありがとうございました。



8月の予定

- 1日(金) 会報「まごころ」発行
- 3日(日) 定例会・勉強会
理事会
- 4日(月) 精神障害者ホームヘルパー養成講習会 (保健所)
- 5日(火) ミニデイサービス・ミニデイサービス体験学習に丹陽中学生参加
- 6日(水) サービス提供責任者会議
- 7日(木) ミニデイサービス (場所・保育園)
- 9日(土) 移動サービス勉強会 (名古屋)
- 11日(月) 精神障害者ホームヘルパー養成講習会 (保健所)
- 12日(火) ミニデイサービス (場所・事務所)
- 13日(水) サービス提供責任者会議
- 19日(火) 一宮市委講座・家族介護講座(介護技術と寝たきり体験)
ミニデイサービス・ミニデイサービス体験学習に今伊勢中学生参加
- 20日(水) 一宮市委講座・家族介護講座(介護技術と寝たきり体験)
- 21日(木) ミニデイサービス (場所・保育園)
苦情・事故事例活用研修会 (名古屋)
- 24日(日) ふれあい映画会 (まごころふれあい広場)
- 25日(月) 精神障害者ホームヘルパー養成講習会 (保健所)
- 26日(火) ミニデイサービス (場所・事務所)
- 27日(水) サービス提供責任者会議
- 28日(火) ミニデイサービス・ミニデイ定例会 (場所・事務所)

知的障害者・児へのふれあい広場

*ふれあい広場絵画教室 8/23・30 午後1時~4時

*ふれあい広場 月・水・金

太極拳 毎週火曜 午後4時~5時
ピアノ教室 第2第4月曜 午前9時30分~

《報告》一宮市ハートフル ケアセミナー開催

・介護従事者スキルアップ研修
講師：看護師廣瀬玲子氏

・内容：解剖生理学の知識
運動は、全身の構造と機能
に深く関係し、成長と老化・
健康と病気など身体的変化に
大きく影響。解剖生理学の視
点で介護現場におけるケアを
具体的な事例から検討。

その中の事例1

・体位交換の重要性
①他動運動刺激は、骨、関節、
筋肉等に刺激を与え、筋肉
の萎縮や関節の拘縮予防に
なる。

②体位交換によって、体循環
の活性がおき消化器や呼吸
器系を刺激、消化吸收を促
進させる。(食欲増進等)

③体位交換によって、より神
経系が刺激され、体位保持
能力がアップ。在位保持を
可能にし、排泄・嚥下など
に影響大きい。QOLの向上。
など、いくつかの事例で
講義。納得のいく解剖生
理メカニズムでした。

(7/17・会場・萩の里/主催・一宮市他)

ある外科医の独り言

おまかせ医療

高 勝義

医療には「説明と同意」、インフォームドコンセントが必要であると言われるようになってからもう十数年が過ぎてしまいました。「医療のことは全く分かりませんから、治療をして下さる先生に全てお任せいたします。どうぞよろしくお願いいたします」というようなおまかせ医療はやってはいけないことであり、どんな検査や治療を行うのか、この治療法以外にどんな方法があるのか、どんな危険があるのか、そしてその結果はどうなるのか等々全てを患者さんに説明し、理解・納得をしていただいた上で、検査や治療をするべきだということです。

癌であれば、癌の再発であれば、治療不可能な病気であれば、非常に危険な検査や治療法であれば例外ではありません。もし説明が十分されていなくて、検査や手術などで思いもかけなかったことが発生した場合には、説明不足ということで訴えられることがあります。従って医療者は自分自身を守るため、検査や治療によって生じうる全ての合併症について事細かに説明をするようになってまいります。医師が一生の内に一度遭遇するかどうかの合併症までも聞かされた患者さんは一体どうなってしまうのでしょうか？

例えば手術についてみてみましょう。全身麻酔をするだけで、麻酔剤の副作用で死ぬこともあります。胃癌の手術ですと、術後の出血や肺炎、縫合不全、腸閉塞、肺梗塞、心筋梗塞、脳梗塞等々のためにかんばしくない結果になることさえあるのです。こんなことを事細かく教えられ、いざこれでも手術をいたしますかと問われた時、患者さんの気持ちは一体どうなるのでしょうか。

一部の人はこの事実を冷静に受け止め理解して下さるのでしようが、大部分の人は手術は本当に安全なのだろうか、と不安な気持ちになるのではないかと思います。いくら真実を話すにしても、患者さんやその家族が理解できるように、あまり心配させないよう、患者さんの気持ちを配慮しながら、真実を話すことが必要ではないのでしょうか。時によっては、「手術の危険性については十分理解しているのです、もうそれ以上詳しく聞きたくはありません。先生を信用しておりますので、よろしくお願いいたします。」というような場合さえあるのです。こんな場合は完全なおまかせ医療になってしまいます。現代の医療から見ればやってはいけないことかもしれませんが、こんな医療があっても良いのではと思ひながら患者さんや家族に説明をしている今日この頃です。

(山下病院院長)

6月会員登録状況

協力会員	35人
利用会員	63人
賛助会員	117人
計	215人

6月有償活動

在宅活動件数	16件
活動人数	28人
ミニデイサービス利用者	76人
移送サービス利用件数	70件
ふれあい広場	22日間
助け合い活動時間	270.5 時間

6月介護保険訪問活動

訪問件数	53件
生活支援	676時間
身体介護(身)	313時間
身体介護(身・生活)	238時間
合計	1227時間